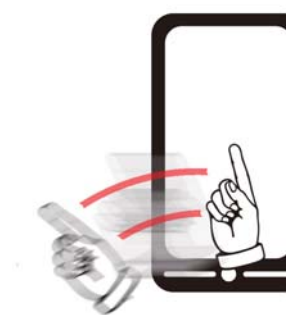


Flick する Railrunner

～更新される空間の集合体～



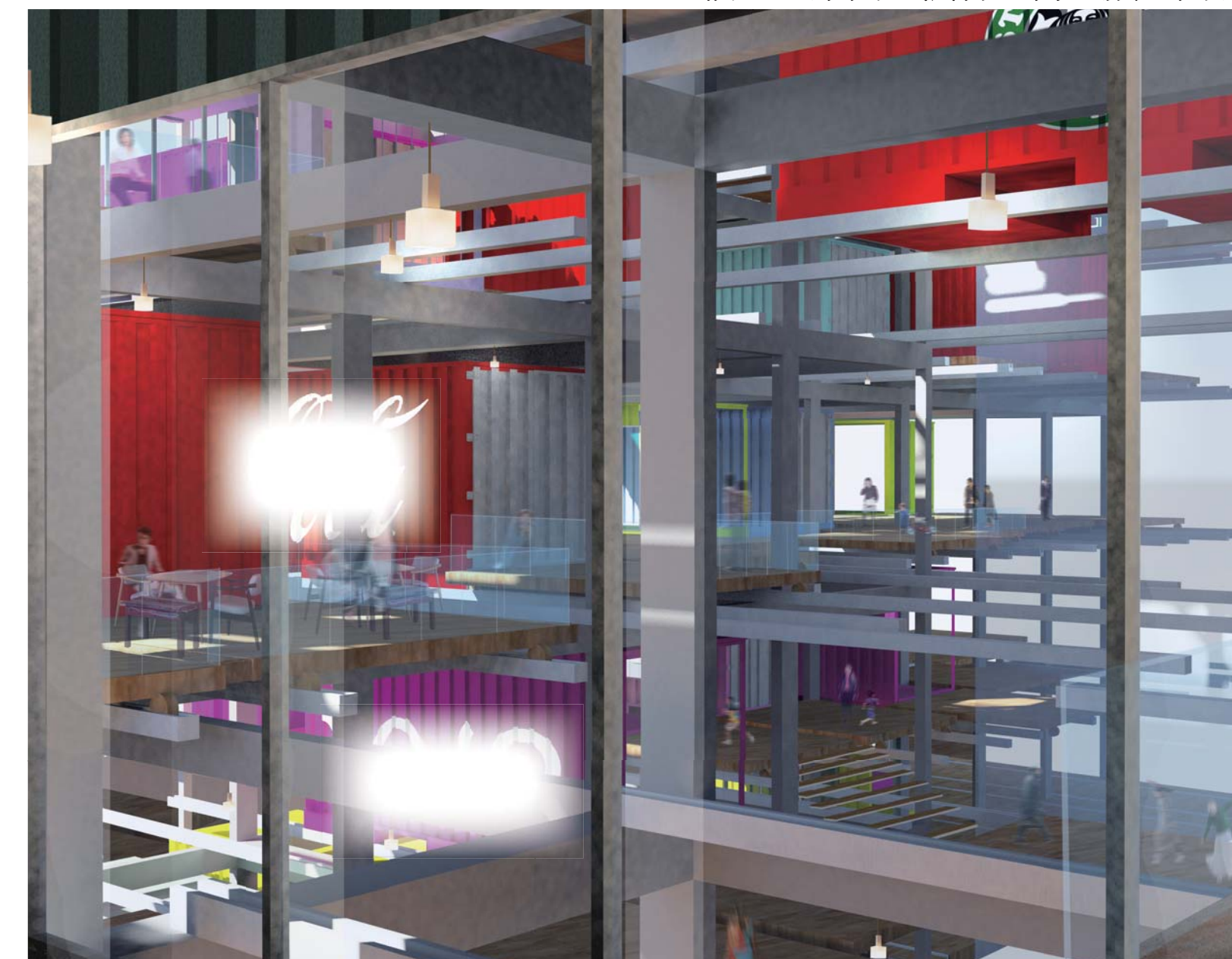
Flick!!

情報化社会はいよいよ本格化、ついに建築が情報に追いつく時が来た。人々がスマホでフリックするように、建築もフリックする感覚でアップデートが行われている。

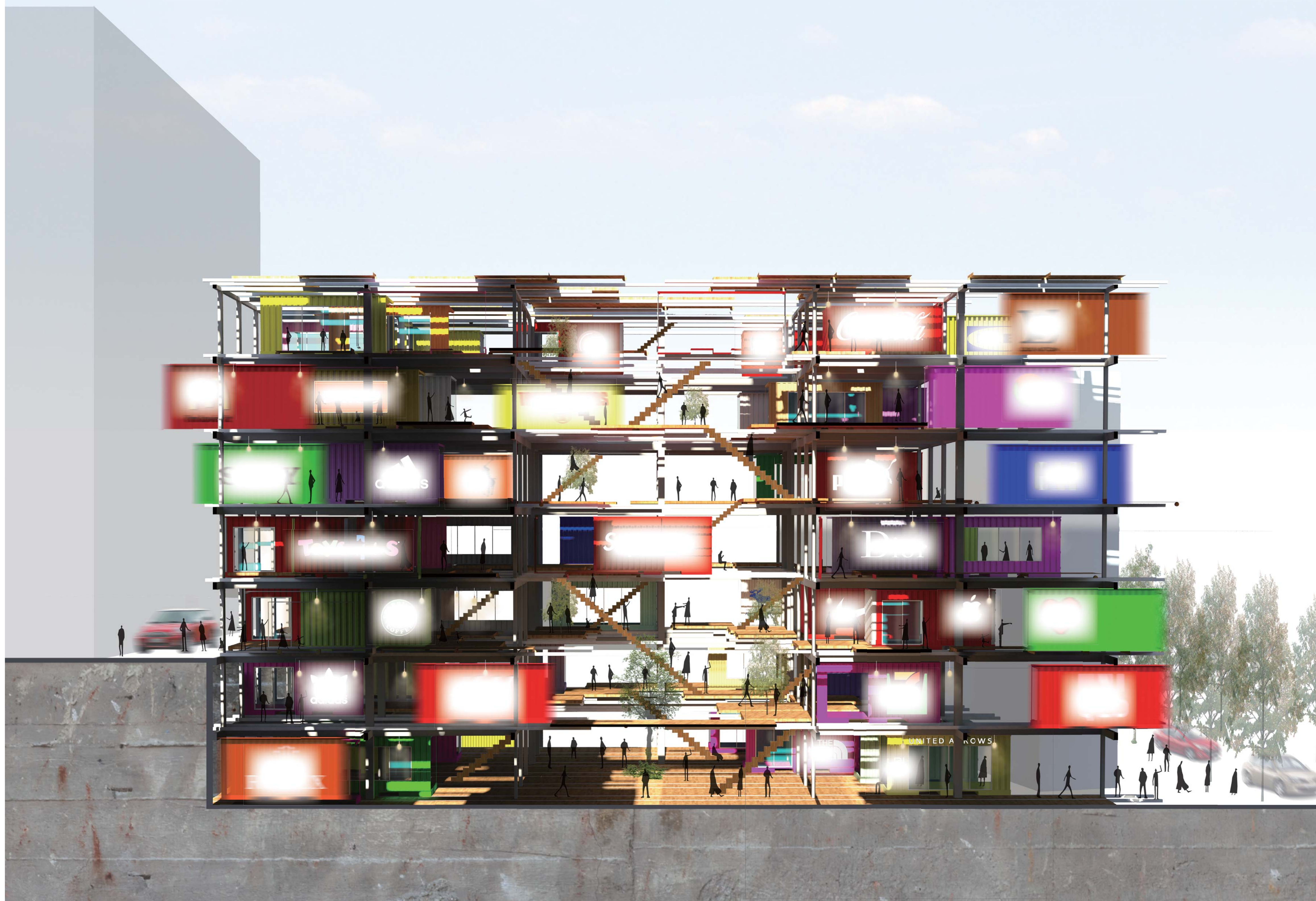
いま、情報のように幅広いニーズに受け答えできる建築が求められている。



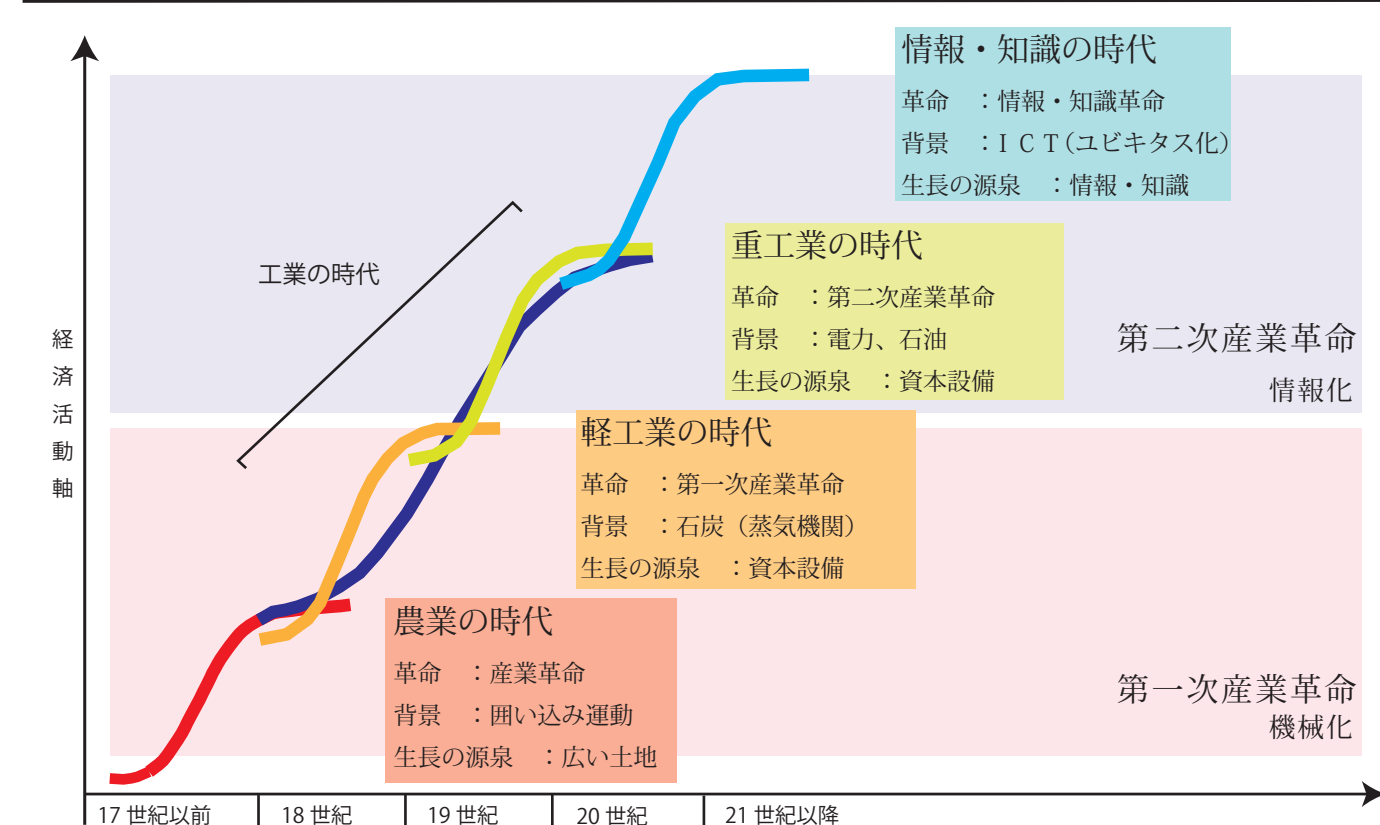
▲個々の集団が渋谷の街に顔を出す



▲コンテナから望む交差するレールランナー

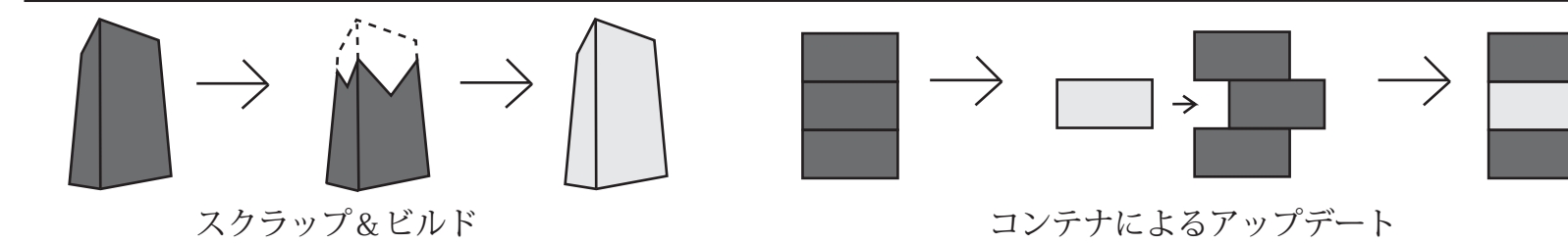


日々更新されていく情報化社会



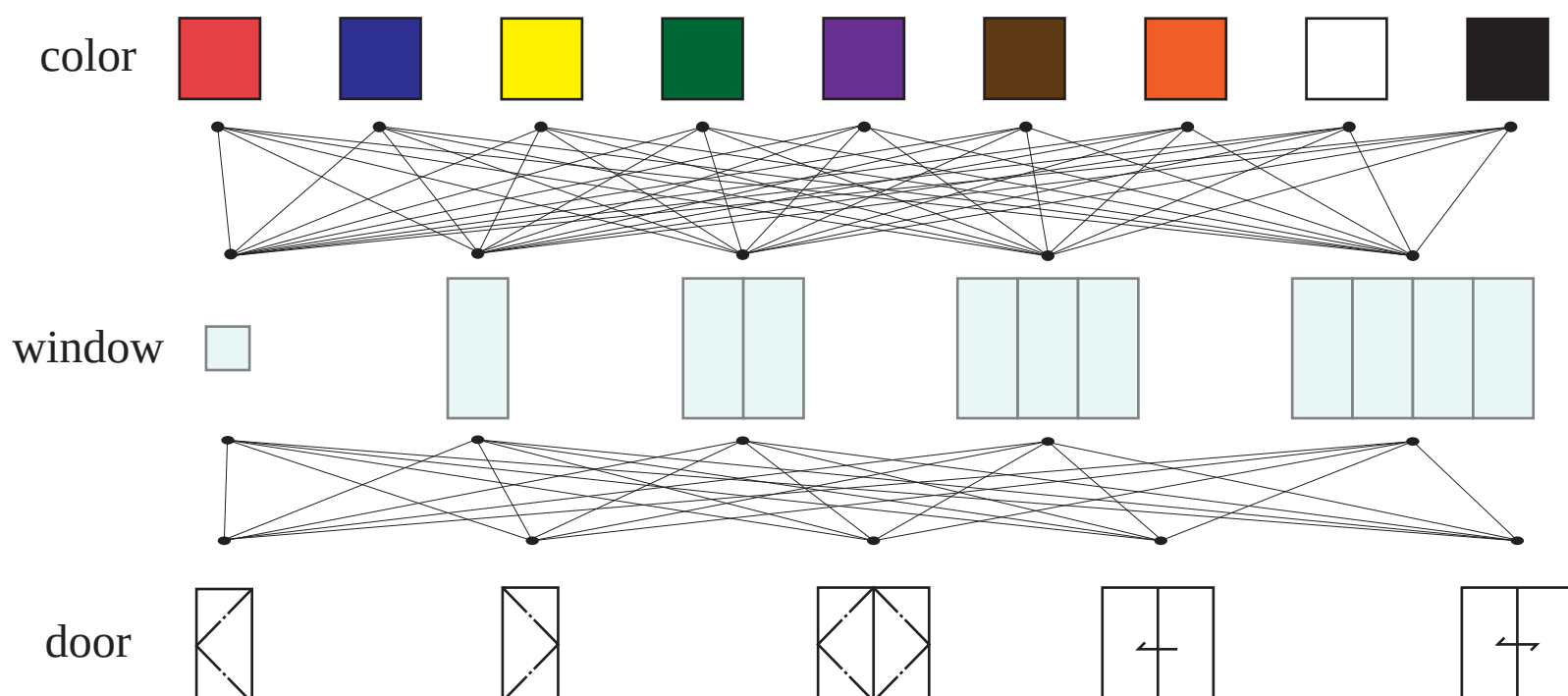
現在、情報が資源と同等の価値を有し、情報を中心として機能する社会となった。1990年代半ば以降、情報化社会と言う言葉は広く用いられる。中でも渋谷は、様々な流行の発信地であり、情報資源の発信地である。今後、情報技術は発展的变化を起こすであろう。しかし、建築はスクラップアンドビルドを繰り返すのみで、情報のような「アップデート」的な変化は起こらない。以上から、私たちは情報のように「アップデートされる建築」を考える。

建築スタイルの変遷

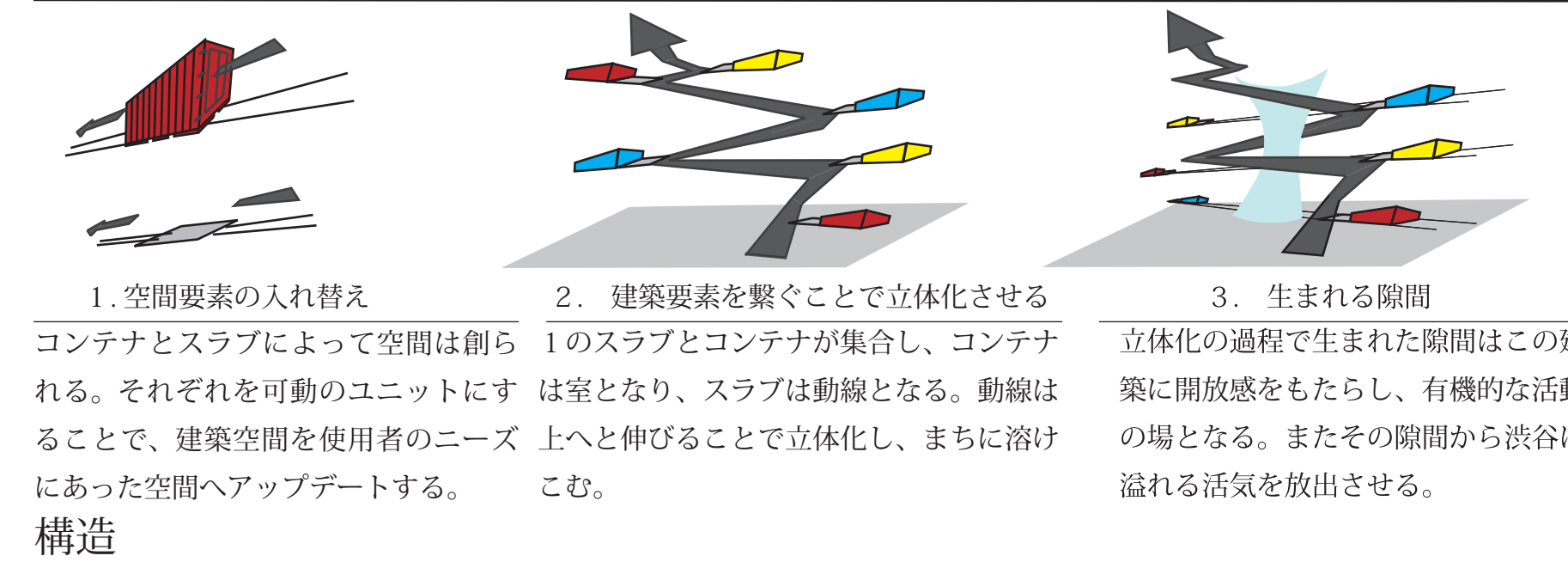


ニーズに合わせたコンテナづくり

各用途のニーズに応えるため、色、窓、ドアといったコンテナの衣装的テクスチャーを選ぶようにする。



全体構成



hlc00240